

【表紙】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 福岡財務支局長 |
| 【提出日】 | 平成26年8月13日 |
| 【四半期会計期間】 | 第35期第3四半期（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社 梅の花 |
| 【英訳名】 | UMENOHANA CO., LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 梅野 重俊 |
| 【本店の所在の場所】 | 福岡県久留米市天神町146番地 |
| 【電話番号】 | 0942(38)3440(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理本部長兼経理部長 上村 正幸 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 福岡県久留米市天神町146番地 |
| 【電話番号】 | 0942(38)3440(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理本部長兼経理部長 上村 正幸 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第34期 第3四半期連結 累計期間 | 第35期 第3四半期連結 累計期間 | 第34期 |
|---------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 会計期間 | 自平成24年 10月1日 至平成25年 6月30日 | 自平成25年 10月1日 至平成26年 6月30日 | 自平成24年 10月1日 至平成25年 9月30日 |
| 売上高(千円) | 22,736,545 | 22,743,300 | 29,780,716 |
| 経常利益(千円) | 335,125 | 673,325 | 207,244 |
| 四半期(当期)純利益(千円) | 107,809 | 427,573 | 41,608 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 139,739 | 426,753 | 57,518 |
| 純資産額(千円) | 6,730,365 | 7,038,057 | 6,648,143 |
| 総資産額(千円) | 18,819,041 | 20,105,231 | 19,002,880 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円) | 14.83 | 58.14 | 5.71 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円) | 12.96 | 49.02 | 4.94 |
| 自己資本比率(%) | 35.8 | 35.0 | 35.0 |

| 回次 | 第34期 第3四半期連結 会計期間 | 第35期 第3四半期連結 会計期間 |
|--|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | 自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日 | 自平成26年 4月1日 至平成26年 6月30日 |
| 1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期純損失金額() (円) | 7.49 | 17.83 |

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 平成24年11月14日開催の当社取締役会の決議により、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残るものの、緩やかに回復していくことが期待されるといわれる中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「素晴らしいおもてなしをする為に たくさんのお客様と会話をしコミュニケーションを図ります お客様の顔と名前を覚えます」を経営方針として、お客様に感極まるサービスを提供できるように取り組んでまいりました。

利益率向上策といたしましては、物流システムの見直しによるコスト削減及び広告宣伝費の抑制、口コミによる営業及び外回り営業の強化による売上拡大、さらに店内営業の強化としてお客様とコミュニケーションを図ることにより、ご来店頻度を高めることができるよう取り組んでおります。

出店につきましては、従来のスクラップアンドビルドに加え未出店エリアへの展開を視野に入れて情報収集を行い、今後の積極的な出店に繋げてまいります。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業7店舗出店及び4店舗閉店、テイクアウト事業3店舗出店及び3店舗閉店により、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、262店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高227億43百万円（前年同期比100.0%）、営業利益7億23百万円（前年同期比151.0%）、経常利益6億73百万円（前年同期比200.9%）、四半期純利益4億27百万円（前年同期比396.6%）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

（外食事業）

外食事業におきましては、平日に曜日限定のイベントを行い売上アップを図るとともに、うなぎ弁当等のテイクアウト商品にも力を入れ売上の底上げに注力いたしました。また、ご来店されたお客様への挨拶を徹底しお客様の顔と名前を覚えコミュニケーションを図ることにより、お1人お1人に応じたきめ細かいサービスを提供することでご来店頻度の向上に努めております。

経費の削減につきましては、人件費の適正化に取り組み、店内営業活動を強化することによって広告宣伝費を抑制しております。

出店及び閉店につきましては、梅の花は5店舗出店及び2店舗閉店し71店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は2店舗出店及び2店舗閉店し5店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は82店舗、売上高は141億11百万円（前年同期比97.5%）、セグメント利益9億95百万円（前年同期比111.0%）となりました。

（テイクアウト事業）

古市庵テイクアウト店におきましては、教育担当者の訪店による指導や、接客・販売コンテストの開催等により顧客満足度の向上に注力しております。また、創業祭や母の日、父の日などのイベント等で購買意欲の向上を図るとともに、冷凍棒寿司等、将来に備えた新商品の開発も行っております。

梅の花テイクアウト店におきましては、お買い上げ頻度を向上させるために、地域の食材を使った地域限定の商品を充実させるとともに、弁当類の取り扱い品目を増やすことで売上拡大を図りました。また、添加物を控え、産地のはっきりした天然由来の食材を使うことで旬の素材を味わっていただける、季節感あふれる商品開発に注力しております。

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は1店舗出店及び2店舗閉店し132店舗、梅の花テイクアウト店は1店舗出店及び1店舗閉店し38店舗、その他店舗は1店舗出店し、10店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は180店舗、売上高は86億31百万円（前年同期比104.5%）、セグメント利益3億52百万円（前年同期比156.5%）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ11億2百万円増加し、201億5百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2億50百万円増加、設備投資により有形固定資産合計が8億25百万円増加したことによるものであります。

負債合計につきましては、前連結会計年度末と比べ7億12百万円増加し、130億67百万円となりました。これは主に借入金の総額が6億28百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ、3億89百万円増加し、70億38百万円となりました。これは主に、利益剰余金が3億90百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設のうち、当第3四半期連結累計期間に完了したものは次のとおりであります。

| 会社名 | 事業所名 (所在地) | セグメントの名称 | 設備の内容 | 投資金額 (千円) | 資金調達方法 | 完了年月 |
|------------------------|------------------------|------------------|-------|--------------|---------------|----------|
| 提出会社 | 神埼ハム工房 (佐賀県神埼市) | 外食事業 テイクアウト事業 | 工場設備 | 133,596 | 自己資金及び 借入金 | 平成26年3月 |
| 株式会社 梅の花 Service | 梅の花仙台店 (宮城県仙台市太白区) | 外食事業 | 店舗設備 | 314,204 | 自己資金及び 借入金 | 平成25年10月 |
| | 花小梅玉川高島屋店 (東京都世田谷区) | 外食事業 | 店舗設備 | 115,665 | 自己資金及び 借入金 | 平成25年12月 |
| | 梅の花おおたかの森店 (千葉県流山市) | 外食事業 | 店舗設備 | 324,889 | 自己資金及び 借入金 | 平成26年1月 |
| | 梅の花宝塚店(仮称) (兵庫県宝塚市) | 外食事業 | 土地 | 302,591 | 自己資金及び 借入金 | 平成26年1月 |
| | 梅の花高槻店 (大阪府高槻市) | 外食事業 | 店舗設備 | 322,290 | 自己資金及び 借入金 | 平成26年4月 |

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 20,700,000 |
| 計 | 20,700,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成26年8月13日) | 上場金融商品取引所名または登録認可金融商品取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------|
| 普通株式 | 7,489,200 | 7,489,200 | 東京証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数は100株であります。 |
| 計 | 7,489,200 | 7,489,200 | | |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数増減数(株) | 発行済株式総数残高(株) | 資本金増減額(千円) | 資本金残高(千円) | 資本準備金増減額(千円) | 資本準備金残高(千円) |
|--------------------------|---------------|--------------|------------|-----------|--------------|-------------|
| 平成26年4月1日～ 平成26年6月30日 | | 7,489,200 | | 4,123,177 | | 2,000,166 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 135,500 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 7,353,500 | 73,535 | |
| 単元未満株式 | 200 | | |
| 発行済株式総数 | 7,489,200 | | |
| 総株主の議決権 | | 73,535 | |

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の株式数には、証券保管振替機構名義の株式が600株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|---------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 株式会社梅の花 | 福岡県久留米市 天神町146番地 | 135,500 | | 135,500 | 1.81 |
| 計 | | 135,500 | | 135,500 | 1.81 |

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,985,089 | 2,235,624 |
| 売掛金 | 1,243,290 | 1,276,318 |
| 商品及び製品 | 78,822 | 73,315 |
| 原材料及び貯蔵品 | 178,739 | 194,236 |
| 繰延税金資産 | 220,204 | 189,826 |
| その他 | 497,143 | 467,962 |
| 貸倒引当金 | 1,558 | 1,558 |
| 流動資産合計 | 4,201,731 | 4,435,725 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 6,725,713 | 7,286,779 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 204,276 | 242,162 |
| 土地 | 4,631,718 | 4,934,273 |
| 建設仮勘定 | 162,070 | 31,011 |
| その他(純額) | 535,314 | 590,030 |
| 有形固定資産合計 | 12,259,094 | 13,084,257 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 462,529 | 375,845 |
| その他 | 71,453 | 96,416 |
| 無形固定資産合計 | 533,983 | 472,262 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 86,796 | 88,172 |
| 長期貸付金 | 183,681 | 183,502 |
| 前払年金費用 | - | 18,251 |
| 繰延税金資産 | 25,339 | 13,670 |
| 敷金及び保証金 | 1,675,940 | 1,756,290 |
| その他 | 139,337 | 155,882 |
| 貸倒引当金 | 103,023 | 102,782 |
| 投資その他の資産合計 | 2,008,071 | 2,112,986 |
| 固定資産合計 | 14,801,149 | 15,669,506 |
| 資産合計 | 19,002,880 | 20,105,231 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 590,446 | 589,327 |
| 短期借入金 | 2,400,000 | 4,200,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,515,232 | 1,209,727 |
| 未払金 | 1,157,643 | 1,072,175 |
| 未払法人税等 | 48,750 | 135,900 |
| 賞与引当金 | 231,600 | 144,000 |
| 資産除去債務 | - | 24,748 |
| ポイント引当金 | 166,989 | 180,872 |
| その他 | 527,781 | 749,288 |
| 流動負債合計 | 6,638,443 | 8,306,039 |
| 固定負債 | | |
| 転換社債型新株予約権付社債 | 2,259,675 | 2,259,675 |
| 長期借入金 | 2,609,732 | 1,743,297 |
| 退職給付引当金 | 83,200 | 32,633 |
| 資産除去債務 | 638,193 | 644,862 |
| その他 | 125,492 | 80,665 |
| 固定負債合計 | 5,716,293 | 4,761,134 |
| 負債合計 | 12,354,736 | 13,067,174 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,123,177 | 4,123,177 |
| 資本剰余金 | 3,500,166 | 3,500,166 |
| 利益剰余金 | 742,311 | 351,507 |
| 自己株式 | 238,147 | 238,218 |
| 株主資本合計 | 6,642,885 | 7,033,618 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 9,984 | 9,165 |
| 為替換算調整勘定 | 4,725 | 4,725 |
| その他の包括利益累計額合計 | 5,258 | 4,439 |
| 純資産合計 | 6,648,143 | 7,038,057 |
| 負債純資産合計 | 19,002,880 | 20,105,231 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 22,736,545 | 22,743,300 |
| 売上原価 | 6,715,307 | 6,752,453 |
| 売上総利益 | 16,021,238 | 15,990,846 |
| 販売費及び一般管理費 | 15,542,435 | 15,267,670 |
| 営業利益 | 478,802 | 723,175 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3,119 | 3,036 |
| 受取配当金 | 1,794 | 932 |
| 受取手数料 | 13,879 | 19,914 |
| 雑収入 | 21,965 | 20,438 |
| 営業外収益合計 | 40,758 | 44,322 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 62,844 | 48,843 |
| 株式交付費 | 34,651 | - |
| 社債発行費 | 32,111 | - |
| 雑損失 | 54,829 | 45,328 |
| 営業外費用合計 | 184,436 | 94,172 |
| 経常利益 | 335,125 | 673,325 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 83,325 | 51,167 |
| 減損損失 | 10,073 | - |
| 特別損失合計 | 93,398 | 51,167 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 241,727 | 622,157 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 44,508 | 151,506 |
| 法人税等調整額 | 89,409 | 43,078 |
| 法人税等合計 | 133,917 | 194,584 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 107,809 | 427,573 |
| 四半期純利益 | 107,809 | 427,573 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 107,809 | 427,573 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 31,930 | 819 |
| その他の包括利益合計 | 31,930 | 819 |
| 四半期包括利益 | 139,739 | 426,753 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 139,739 | 426,753 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日) |
|---------|--|--|
| 減価償却費 | 735,425千円 | 782,113千円 |
| のれんの償却額 | 86,724 | 86,733 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|-----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|-------------|-------|
| 平成24年12月21日 定時株主総会 | 普通株式 | 34,896 | 500 | 平成24年9月30日 | 平成24年12月25日 | 利益剰余金 |

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成24年12月3日付で、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社から第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が4,123,177千円、資本剰余金が3,500,166千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|-----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|-------------|-------|
| 平成25年12月20日 定時株主総会 | 普通株式 | 36,768 | 5 | 平成25年9月30日 | 平成25年12月24日 | 利益剰余金 |

(注)当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。なお、1株当たり配当額については、当該株式分割後の金額を記載しております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年11月5日開催の取締役会において、平成25年12月20日開催の定時株主総会に、資本準備金の額の減少を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

(1)資本準備金の額の減少の目的

今後の財務戦略上の柔軟性および機動性を確保するため、資本準備金の額を減少いたしました。

(2)資本準備金の額の減少の要領

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,500,166千円のうち1,500,000千円を減少させ、

そ

の他資本剰余金に減少額の全額を振り替えました。

減少後の資本準備金の額は、2,000,166千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-------------------|------------|--------------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 外食事業 | テイクアウト 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 14,477,821 | 8,258,724 | 22,736,545 | | 22,736,545 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 6,760 | 25,259 | 32,020 | 32,020 | |
| 計 | 14,484,582 | 8,283,984 | 22,768,566 | 32,020 | 22,736,545 |
| セグメント利益 | 896,515 | 225,245 | 1,121,760 | 642,957 | 478,802 |

(注)1 セグメント利益の調整額 642,957千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-------------------|------------|--------------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 外食事業 | テイクアウト 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 14,111,753 | 8,631,546 | 22,743,300 | | 22,743,300 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 6,020 | 25,934 | 31,955 | 31,955 | |
| 計 | 14,117,773 | 8,657,481 | 22,775,255 | 31,955 | 22,743,300 |
| セグメント利益 | 995,321 | 352,430 | 1,347,752 | 624,576 | 723,175 |

(注)1 セグメント利益の調整額 624,576千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント利益の測定方法の変更)

第1四半期連結累計期間より経営管理手法の変更に伴い、各事業セグメントに対する費用の配賦基準の見直しを行っております。これは、セグメント別損益の実態をより正確に表示するためであります。

なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントは、見直後の配賦基準に基づき作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日) |
|---|--|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 | 14円83銭 | 58円14銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 107,809 | 427,573 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 107,809 | 427,573 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 7,267,366 | 7,353,706 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | 12円96銭 | 49円02銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益調整額(千円) | - | - |
| 普通株式増加数(株) | 1,053,461 | 1,369,500 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | - | - |

(注) 当社は、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年8月4日開催の取締役会において、株式会社古市庵(以下、「古市庵」といいます。)を完全子会社とする株式交換(以下、「本株式交換」といいます。)を行うことを決議し、古市庵との間で株式交換契約(以下、「本株式交換契約」といいます。)を締結しました。

本株式交換につきまして、当社は、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続きにより、当社株主総会による承認を受けず、また、古市庵は平成26年9月1日に開催される予定の臨時株主総会において自己が当事者となる本株式交換契約の承認を受けたうえで、平成26年10月1日を効力発生日として行う予定であります。

なお、本株式交換は連結子会社を完全子会社化する簡易株式交換であります。

1. 本株式交換による完全子会社化の目的

当社は、連結子会社である古市庵を本株式交換により完全子会社とすることにより、グループ運営の機動性を高め、意思決定を迅速に行い、効率的な経営体制の確立を図ることにより企業価値向上を目指してまいります。

2. 本株式交換の要旨

(1) 本株式交換の日程

| | |
|-------------------|----------------|
| 取締役会決議(両社) | 平成26年8月4日 |
| 契約締結日(両社) | 平成26年8月4日 |
| 株式交換承認臨時株主総会(古市庵) | 平成26年9月1日(予定) |
| 株式交換の予定日(効力発生日) | 平成26年10月1日(予定) |

(注) 当社は、本株式交換については、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続きにより、株主総会の承認を受けずに行う予定であります。

(2) 本株式交換の方式

当社を株式交換完全親会社、古市庵を株式交換完全子会社とする株式交換であります。

(3) 本株式交換に係る割当ての内容

| | 当社 (株式交換完全親会社) | 古市庵 (株式交換完全子会社) |
|-----------------|-------------------|--------------------|
| 株式交換に係る 交換比率 | 1 | 0.017 |

(注1) 本株式交換により交付する株式

当社は、本株式交換により交付する当社株式には当社が保有する自己株式24,055株を充当する予定であり、新株式の発行は行わない予定であります。なお、当社が保有する古市庵株式3,596,320株については、割当ては行いません。

(注2) 単元未満株式の取り扱い

本株式交換に伴い、当社の単元未満株式(1単元(100株)に満たない数の株式)を保有する株

主

が生じることが見込まれますが、当社の単元未満株式を保有することとなる株主の皆様におかれ

ま

しては、会社法第192条第1項の定めに基づき、当社に対し自己の保有する単元未満株式の買取

り

を請求することができます。

(注3) 1株に満たない端数の処理

本株式交換により交付する株式に1株に満たない端数がある場合、当社は会社法第234条その他

関

係法令の規定に基づく処理を行います。

(4) 本株式交換に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い

古市庵が発行している新株予約権及び新株予約権付社債はありません。

3. 本株式交換に係る割当ての内容の算定の考え方

(1) 割当て内容の根拠及び理由

当社及び古市庵は、第三者機関である株式会社エフエーエスから提出を受けた株式交換比率の算定結果及び

両

社の財務状況、業績動向、株価動向等を参考に、両者間で交渉・協議を行った結果、上記2.(3)記載の株式交換比率が妥当であるとの判断により合意いたしました。なお、株式交換比率は、その前提となる諸条件について重大な変更が生じた場合、両者間で協議のうえ変更することがあります。

(2) 算定に関する事項

株式会社エフエーエスは、当社の株式価値については東京証券取引所市場第二部に上場しており、市場株価が存在していることから市場株価法(平成26年6月30日を算定基準日とし、東京証券取引所における算定基準日の終値及び同日から遡る1ヶ月、3ヶ月及び6ヶ月の各期間の日次の終値の平均値)に加えて、将来の事業活動の状況を算定に反映する目的から、将来の収益に基づき、将来生み出すと見込まれるフリー・キャッシュ・フローを一定の割引率で現在価値に割り引くことにより株式価値を算出する評価方法であるディスカунテッド・キャッシュフロー法(以下、「DCF法」といいます。)による算定を行いました。なお、DCF法による算定において前提とした、当社の利益計画には、大幅な増減益を見込んでいる事業年度はありません。また、平成27年12月3日に満期償還日を迎える「株式会社梅の花第1回無担保転換社債型新株予約権付社債」は新株予約権が行使されると仮定しております。

| 採用手法 | 算定結果(円/株) |
|-------|-------------|
| 市場株価法 | 2,055~2,090 |
| DCF法 | 1,924~2,142 |

古市庵の株式価値については非上場会社であることを勘案し、将来の事業活動の状況を評価に反映させるためにDCF法を採用し算定を行いました。この算定にあたっては、古市庵が策定した事業計画に基づくフリー・キャッシュ・フローに基づいて算定を行っております。なお、DCF法による算定において前提とした、古市庵の利益計画には、大幅な増減益を見込んでいない事業年度はありません。

| 採用手法 | 算定結果（円 / 株） |
|------|-------------|
| DCF法 | 16～35 |

以上の結果に基づいた場合（当社につきましては、市場株価法及びDCF法の2種類、古市庵につきましては、DCF法の算定方法を採用した場合）、当社株価についての算定手法による算定結果が重複するレンジは、1株あたり2,055円～2,090円であり、当該レンジ内の株価について理論的に妥当な価格であると判断することができます。当社株価について当該レンジに基づいた結果、採用し得る合理的な株式交換比率の範囲（古市庵の1株当たりの株式価値を1とする。）は以下のとおりとなります。

| 採用手法 | 株式交換比率 |
|---------------|-------------|
| 市場株価法 DCF法 | 0.008～0.017 |

（3）公正性を担保するための措置

当社は、本株式交換の交換比率の算定にあたり、公平性・妥当性を確保するため、独立した第三者機関である株式会社エフエーエスに対して当社及び古市庵の株式価値の算定を依頼いたしました。

なお、上記第三者機関は、当社及び古市庵の関連当事者（連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則第15条の4、財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則第8条第17項）ではありません。

4. 本株式交換の当事会社の概要（平成26年3月31日現在）

| | 株式交換完全親会社 | 株式交換完全子会社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|-------------------------------|--------|------|-------|-------|-------|-----------|--|-----------|-------|--------|-------|--|--------|--------|------|-------|------|-------|-----|-------|------|-------|
| (1) 名称 | 株式会社 梅の花 | 株式会社 古市庵 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 所在地 | 福岡県久留米市天神町146番地 | 福岡県久留米市天神町146番地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 代表者の役職・氏名 | 代表取締役社長 梅野 重俊 | 代表取締役社長 西浜 英彦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4) 事業内容 | 飲食店及びテイクアウト店の 経営指導、食材等の供給 | 百貨店等で寿司を中心に販売する 「古市庵」の店舗経営 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5) 資本金 | 4,123百万円 | 10百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (6) 設立年月日 | 昭和54年10月1日 | 昭和52年6月13日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (7) 発行済株式数 | 7,489,200株 | 5,011,300株 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (8) 決算期 | 9月30日 | 9月30日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (9) 大株主及び持株比率 | <table border="0"> <tr><td>(有)梅野企画</td><td>16.05%</td></tr> <tr><td>梅野重俊</td><td>8.00%</td></tr> <tr><td>梅野久美恵</td><td>5.04%</td></tr> <tr><td>エイチ・ツー・オー</td><td></td></tr> <tr><td>リテイリング(株)</td><td>5.00%</td></tr> <tr><td>(株)梅の花</td><td>1.81%</td></tr> </table> | (有)梅野企画 | 16.05% | 梅野重俊 | 8.00% | 梅野久美恵 | 5.04% | エイチ・ツー・オー | | リテイリング(株) | 5.00% | (株)梅の花 | 1.81% | <table border="0"> <tr><td>(株)梅の花</td><td>71.76%</td></tr> <tr><td>平田輝章</td><td>4.29%</td></tr> <tr><td>吉川敬三</td><td>2.52%</td></tr> <tr><td>藤田基</td><td>2.39%</td></tr> <tr><td>辰巳慶二</td><td>2.25%</td></tr> </table> | (株)梅の花 | 71.76% | 平田輝章 | 4.29% | 吉川敬三 | 2.52% | 藤田基 | 2.39% | 辰巳慶二 | 2.25% |
| (有)梅野企画 | 16.05% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 梅野重俊 | 8.00% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 梅野久美恵 | 5.04% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エイチ・ツー・オー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リテイリング(株) | 5.00% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株)梅の花 | 1.81% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株)梅の花 | 71.76% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平田輝章 | 4.29% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 吉川敬三 | 2.52% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 藤田基 | 2.39% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 辰巳慶二 | 2.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (10) 直近事業年度の経営成績及び財政状態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 決算期 | 平成25年9月期（連結） | 平成25年9月期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 純資産 | 6,648百万円 | 151百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総資産 | 19,002百万円 | 1,989百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1株当たり純資産 | 904.05円 | 30.30円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 売上高 | 29,780百万円 | 8,559百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 営業利益 | 377百万円 | 192百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経常利益 | 207百万円 | 171百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当期純利益 | 41百万円 | 133百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1株当たり当期純利益 | 5.71円 | 26.60円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. 本株式交換後の状況

本株式交換による当社の商号、本店所在地、代表者、事業内容、資本金、決算期について変更はありません。

6. 今後の見通し

本株式交換が当社の業績に与える影響は軽微であります。

（参考）当期連結業績予想（平成25年11月14日公表分）及び前期連結実績

（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------------|--------|------|------|-------|
| 当期連結業績予想 （平成26年9月期） | 30,002 | 505 | 417 | 288 |
| 前期連結実績 （平成25年9月期） | 29,780 | 377 | 207 | 41 |

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月 7日

株式会社梅の花

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 工藤 重之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 甲斐 祐二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社梅の花の平成25年10月1日から平成26年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年10月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社梅の花及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。